

平成 30 年度「大阪府中学校 3 年生統一テスト」出題範囲・内容

I 【国語】の出題範囲・内容

1 学習指導要領の指導内容

① テスト問題は、中学校学習指導要領国語(平成 20 年告示)の目標及び内容に基づき、下記の点を踏まえて作成する。

- 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能などを問う内容
- 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などに関わる内容

② 以下の内容を出題範囲とする。

領域別出題範囲

以下は、学習指導要領（解説）記載の内容項目

中学校第 1 学年の学習内容			
A 話すこと・ 聞くこと	B 書くこと	C 読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
(1) ア イ ウ エ オ	(1) ア イ ウ エ オ	(1) ア イ ウ エ オ カ	(1) ア (7) (イ) イ (7) (イ) (ウ) (エ) (オ) ウ (7) (イ) (2) ア イ
中学校第 2 学年の学習内容			
A 話すこと・ 聞くこと	B 書くこと	C 読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
(1) ア イ ウ エ オ	(1) ア イ ウ エ オ	(1) ア イ ウ エ オ	(1) ア (7) (イ) イ (7) (イ) (ウ) (エ) (オ) ウ (7) (イ) (2) ア イ
中学校第 3 学年の学習内容			
A 話すこと・ 聞くこと	B 書くこと	C 読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
			※第 2 学年までに学習した常用漢字に加え、中学校第 3 学年 7 月終了時まで、大阪市内の公立中学校等における採択教科書（文部科学大臣の検定を経た教科用図書）において共通して取り扱われているものについて読むこと。

Ⅱ [社会] の分野別出題範囲・内容

1 学習指導要領の指導内容

① テスト問題は、中学校学習指導要領社会(平成 20 年告示)の目標及び内容に基づき、下記の点を踏まえて作成する。

- 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能などを問う内容
- 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などに関わる内容

② 以下の内容を出題範囲とする。

ア 分野別出題範囲

以下は、学習指導要領（解説）記載の内容項目

地理的分野	歴史的分野	公民的分野
(1) 世界の様々な地域 ア 世界の地域構成 イ 世界各地の人々の生活と環境 ウ 世界の諸地域 エ 世界の様々な地域の調査 (2) 日本の様々な地域 ア 日本の地域構成 イ 世界と比べた日本の地域的特色 (ア) (イ) (ウ) (エ) ウ 日本の諸地域 (ア) (イ) (ウ) (エ) (オ) (カ) (キ) エ 身近な地域の調査	(1) 歴史のとらえ方 アイウ (2) 古代までの日本 アイウ (3) 中世の日本 アイ (4) 近世の日本 アイウエ (5) 近代の日本と世界 アイウエオカ (6) 現代の日本と世界 アイ	(1) 私たちと現代社会 ア 私たちが生きる現代社会と文化 イ 現代社会をとらえる見方や考え方

Ⅲ [数学] の出題範囲・内容

1 学習指導要領の指導内容

- ① テスト問題は、中学校学習指導要領数学(平成 20 年告示)の目標及び内容に基づき、下記の点を踏まえて作成する。
- 1, 2 年生の「資料の活用」領域や 3 年生で学習した内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能などを問う内容
 - 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などに関わる内容
- ② 以下の内容を出題範囲とする。
- (領域別出題範囲) 以下は、学習指導要領(解説)記載の内容項目

中学校第 1 学年の学習内容			
A 数と式	B 図形	C 関数	D 資料の活用
(1) アイウエ 【正の数と負の数】 ・必要性和意味 ・四則計算とその意味 ・表現、処理 (2) アイウエ 【文字を用いた式】 ・必要性和意味 ・式の計算 ・表現、読み取り (3) アイウ 【一元一次方程式】 ・必要性和意味 ・解の意味 ・等式の性質 ・方程式を解く ・方程式の活用	(1) アイ 【平面図形】 ・基本的な作図とその活用 ・平行移動、対称移動及び回転移動 (2) アイウ 【空間図形】 ・空間における直線や平面の位置関係 ・扇形の弧の長さや面積 ・基本的な柱体、錐体および球の表面積と体積	(1) アイウエオ 【比例と反比例】 ・関数関係の意味 ・比例、反比例の関係 ・座標の意味 ・比例、反比例の特徴・事象を捉え説明する	(1) アイ 【資料の活用】 ・ヒストグラムや代表値の意味 ・資料の傾向を捉え説明する。
中学校第 2 学年の学習内容			
A 数と式	B 図形	C 関数	D 資料の活用
(1) アイウ 【文字を用いた式】 ・整式の加法、減法 ・単項式の乗法、除法 ・表現、説明 ・式の変形 (2) アイウ 【連立二元一次方程式】 ・必要性和意味 ・解の意味 ・方程式を解く ・方程式の活用	(1) アイ 【平行線の性質】 ・平行線や角の性質 ・多角形の角の性質 (2) アイウ 【合同条件と証明】 ・合同の意味 ・三角形の合同条件 ・証明の必要性和意味 ・証明の方法 ・三角形と平行四辺形	(1) アイウエ 【一次関数】 ・一次関数の関係 ・一次関数の特徴 ・二元一次方程式 ・事象を捉え説明する	(1) アイ 【資料の活用】 ・確率の必要性和意味 ・不確定な事象を捉え説明する

中学校第3学年の学習内容		※ 中学校第3学年の領域B図形、C関数、D資料の活用までは出題範囲に含まない	
A 数と式	B 図形	C 関数	D 資料の活用
(1) アイウ 【平方根】 ・必要性と意味 ・簡単な式の計算 ・平方根の利用 (2) アイウ 【式の展開と因数分解】 ・単項式と多項式の乗法・除法 ・式の展開と因数分解 ・文字を用いた説明 (3) アイウエ 【二次方程式】 ・必要性と意味，解の意味 ・方程式を解く ・解の公式の活用 ・方程式の活用			

Ⅳ [理科]の出題範囲・内容

○ テスト問題は、「Ⅳ. 中学校 [理科] の出題範囲・内容」に示す「理科A問題」「理科B問題」「理科C問題」を作成する。

なお、「理科A問題」は、以下の「ア～ウの出題範囲」に示す、「生物的領域（共通）」、「化学的領域（共通）」、「物理的領域（共通）」、「地学的領域（共通）」と中学校第3学年「生物的領域（選択）」を合わせたものとする。また、「理科B問題」は、「生物的領域（共通）」、「化学的領域（共通）」、「物理的領域（共通）」、「地学的領域（共通）」と中学校第3学年「化学的領域（選択）」を合わせたものとする。また、「理科C問題」は、「生物的領域（共通）」、「化学的領域（共通）」、「物理的領域（共通）」、「地学的領域（共通）」と中学校第3学年「物理的領域（選択）」を合わせたものとする。

1 学習指導要領の指導内容

① テスト問題は、中学校学習指導要領理科(平成20年告示)の目標及び内容に基づき、下記の点を踏まえて作成する。

- 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能などを問う内容
- 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などに関わる内容

② 以下の内容を出題範囲とする。

ア 中学校第1学年（領域別出題範囲）

以下は、学習指導要領（解説）記載の内容項目

第1分野		第2分野	
物理的領域（共通）	化学的領域（共通）	生物的領域（共通）	地学的領域（共通）
(1) 身近な物理現象 ア 光と音 (ア) 光の反射・屈折 (イ) 凸レンズの働き (ウ) 音の性質 イ 力と圧力 (ア) 力の働き (イ) 圧力	(2) 身の回りの物質 ア 物質のすがた (ア) 身の回りの物質とその性質 (イ) 気体の発生と性質 イ 水溶液 (ア) 物質の溶解 (イ) 溶解度と再結晶 ウ 状態変化 (ア) 状態変化と熱 (イ) 物質の融点と沸点	(1) 植物の生活と種類 ア 生物の観察 (ア) 生物の観察 イ 植物の体のつくりと働き (ア) 花のつくりと働き (イ) 葉・茎・根のつくりと働き ウ 植物の仲間 (ア) 種子植物の仲間 (イ) 種子をつくらない植物の仲間	(2) 大地の成り立ちと変化 ア 火山と地震 (ア) 火山活動と火成岩 (イ) 地震の伝わり方と地球内部の働き イ 地層の重なりと過去の様子 (ア) 地層の重なりと過去の様子

イ 中学校第2学年（領域別出題範囲）

以下は、学習指導要領（解説）記載の内容項目

第1分野		第2分野	
物理的領域（共通）	化学的領域（共通）	生物的領域（共通）	地学的領域（共通）
(3) 電流とその利用 ア 電流 (ア) 回路と電流・電圧 (イ) 電流・電圧と抵抗 (ウ) 電気とそのエネルギー (エ) 静電気と電流 イ 電流と磁界 (ア) 電流がつくる磁界 (イ) 磁界中の電流が受ける力 (ウ) 電磁誘導と発電	(4) 化学変化と原子・分子 ア 物質の成り立ち (ア) 物質の分解 (イ) 原子・分子 イ 化学変化 (ア) 化合 (イ) 酸化と還元 (ウ) 化学変化と熱 ウ 化学変化と物質の質量 (ア) 化学変化と質量の保存 (イ) 質量変化の規則性	(3) 動物の生活と生物の変遷 ア 生物と細胞 (ア) 生物と細胞 イ 動物の体のつくりと働き (ア) 生命を維持する働き (イ) 刺激と反応 ウ 動物の仲間 (ア) 脊椎動物の仲間 (イ) 無脊椎動物の仲間 エ 生物の変遷と進化 (ア) 生物の変遷と進化	(4) 気象とその変化 ア 気象観測 (ア) 気象観測 イ 天気の変化 (ア) 霧や雲の発生 (イ) 前線の通過と天気の変化 ウ 日本の気象 (ア) 日本の天気の特徴 (イ) 大気の動きと海洋の影響

第1分野		第2分野	
物理的領域（選択C）	化学的領域（選択B）	生物的領域（選択A）	
(5) 運動とエネルギー ア 運動の規則性 (ア) 力のつり合い (イ) 運動の速さと向き (ウ) 力と運動 イ 力学的エネルギー (ア) 仕事とエネルギー (イ) 力学的エネルギーの保存	(6) 化学変化とイオン ア 水溶液とイオン (ア) 水溶液の電気伝導性 (イ) 原子の成り立ちとイオン (ウ) 化学変化と電池 イ 酸・アルカリとイオン (ア) 酸・アルカリ (イ) 中和と塩	(5) 生命の連続性 ア 生物の成長と殖え方 (ア) 細胞分裂と生物の成長 (イ) 生物の殖え方 イ 遺伝の規則性と遺伝子 (ア) 遺伝の規則性と遺伝子	

V [外国語（英語）] の出題範囲・内容

1 学習指導要領の指導内容

① テスト問題は、中学校学習指導要領外国語(英語)(平成 20 年告示)の目標及び内容に基づき、下記の点を踏まえて作成する。

- 身に付けておくべき学習内容で、実生活において常に活用できることが望ましい知識・技能などを問う内容
- 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などに関わる内容

② 以下の内容を出題範囲とする。

ア 領域別出題範囲

以下は、学習指導要領(解説)記載の内容項目

(1) ア 聞くこと	(1) イ 話すこと	(1) ウ 読むこと	(1) エ 書くこと
<p>(7) 強勢、イントネーション、区切りなど基本的な英語の音声の特徴をとらえ、正しく聞き取ること。</p> <p>(4) 自然な口調で話されたり読まれたりする英語を聞いて、情報を正確に聞き取ること。</p> <p>(ウ) 質問や依頼などを聞いて適切に応じること。</p> <p>(エ) 話し手に聞き返すなどして内容を確認しながら理解すること。</p> <p>(オ) まとまりのある英語を聞いて、概要や要点を適切に聞き取ること。</p>		<p>(7) 文字や符号を識別し、正しく読むこと。</p> <p>(4) 書かれた内容を考えながら黙読したり、その内容が表現されるように音読すること。</p> <p>(ウ) 物語のあらすじや説明文の大切な部分などを正確に読み取ること。</p> <p>(エ) 伝言や手紙などの文章から書き手の意向を理解し、適切に応じること。</p> <p>(オ) 話の内容や書き手の意見などに対して感想を述べたり賛否やその理由を示したりなどすることができるよう、書かれた内容や考え方などをとらえること。</p>	<p>(7) 文字や符号を識別し、語と語の区切りなどに注意をして正しく書くこと。</p> <p>(4) 語と語のつながりなどに注意して正しく文を書くこと。</p> <p>(ウ) 聞いたり読んだりしたことについてメモをとったり、感想、賛否やその理由を書いたりなどすること。</p> <p>(エ) 身近な場面における出来事や体験したことなどについて、自分の考えや気持ちなどを書くこと。</p> <p>(オ) 自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりなどに注意して文章を書くこと。</p>

イ 解答時間として 45 分を配当する。ただし、45 分のうち、最初の 10 分程度をリスニングの問題にあてるものとする。

2 使用する言語材料について（言語材料の限定）

言語材料は、中学校第 3 学年 7 月終了時まで、大阪市内の公立中学校等における採択教科書（文部科学大臣の検定を経た教科用図書）において共通して取り扱われているものに限る。

文法事項については、以下の範囲とする。

- ・単文、重文及び複文
- ・肯定及び否定の平叙文
- ・肯定及び否定の命令文

- ・疑問文のうち、動詞で始まるもの、助動詞（can, do, may など）で始まるもの、or を含むもの及び疑問詞（how, what, when, where, which, who, whose, why）で始まるもの

・文構造

◇ [主語＋動詞]

◇ [主語＋動詞＋補語] のうち、

- ・主語＋be 動詞＋ $\left\{ \begin{array}{l} \text{名詞} \\ \text{代名詞} \\ \text{形容詞} \end{array} \right\}$
- ・主語＋be 動詞以外の動詞＋ $\left\{ \begin{array}{l} \text{名詞} \\ \text{形容詞} \end{array} \right\}$

◇ [主語＋動詞＋目的語] のうち、

- ・主語＋動詞＋ $\left\{ \begin{array}{l} \text{名詞} \\ \text{代名詞} \\ \text{動名詞} \\ \text{to 不定詞} \\ \text{that で始まる節} \end{array} \right\}$

◇ [主語＋動詞＋間接目的語＋直接目的語] のうち、

- ・主語＋動詞＋間接目的語＋ $\left\{ \begin{array}{l} \text{名詞} \\ \text{代名詞} \end{array} \right\}$

◇ There ＋ be 動詞＋～

- ・代名詞のうち、人称、指示、疑問、数量を表すもの
- ・動詞の時制などのうち、現在形、過去形、現在進行形、過去進行形、現在完了形及び助動詞などを用いた未来表現
- ・to 不定詞のうち、名詞としての用法及び副詞としての用法
- ・動名詞
- ・受け身